を思ふ故に灸を加るが如し。❶又佛在世には佛法華經を祕し給しかば、四十餘年の間等覺・不退の菩薩、名をしらず。其上壽量品は法華經八箇年の内にも名を祕し給て、最後にきかしめ給き。末代の凡夫には左右なく如何きかしむべきとおぼゆる處を、❷妙樂大師釋云、佛世當機故簡、末代結緣故聞と釋し給へり。文の心は、❸佛在世には佛一期の間、多の人不退の位にのぼりぬべき故に、法華經の名義を出して謗ぜしめず、機をこしらへて說之。佛滅後には當機衆は少く結緣衆多きが故に、就多分左右なく法華經を說べしと云文也。❹是體の多の品あり。又末代の師は多は機を知らず。機を知ざらんには强❺て但實教を說べき歟。されば天台大師釋云、等是不見但說大無咎文。❻文の心は機をも不知說大失なしと云文也。又見時機說法する方もあり。❼皆國中の諸人權經を信じて實經を謗じ强に不用、彈呵の心をもて可說歟。時に依て用否あるべし。問云、唐土の人師の中に、一分一向に權大乘に留て實經に入ざる者はいかなる故か候。答云、佛世に出でましまして先四十餘年の權大乘小乘の經を說、❽後には法華經を說て言く、若以小乘化　乃至於一人　我則墮慳貪　此事爲不可文。❾文の心は、佛但爾前の經許を說て法華經を說給はずば佛慳貪の失ありと說れたり。後に屬累品に

❶加＝アタフ(朔)　❷を＝ニ(朔)　❸〔佛在世には〕ー(朔)　❹文＝釋(朔)　❺〔强て〕ー(朔)　❻文＝ト云ヘリ(朔)　❼〔皆〕ー(朔)　❽先＝前(朔)　❾〔此…可〕5字ー(朔)　❿文＝云ヘリ(朔)　⓫(經)十文(朔)